

コスモ石油株式会社 経営戦略

2004年5月20日
代表取締役会長兼社長
岡部 敬一郎

資料目次

2003年度実績ハイライト

Page 1 , 2003年度実績ハイライト

中期計画の進捗と見通し

- 2 , 合理化・価値創造（単体ベース）2003年度実績と2004年度見通し
- 3 , 連結有利子負債の推移と見通し

供給戦略

- 4 , 精製能力最適化と設備稼働率
- 5 , 坂出製油所へのLNG基地建設

販売戦略

- 6 , 当社収益構造と販社強化政策
- 7 , 直営・販売子会社強化 進捗と見通し
- 8 , Auto B-cle、セルフSS、コスモ・ザ・カード発券の進捗と見通し
- 9 , SS業態化戦略について

石油開発・新規事業等

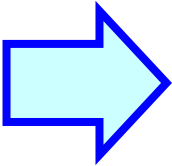
- 10 , 石油開発、電力・新エネルギー、新規事業の進捗と見通し

参考資料...合理化・価値創造進捗総括表



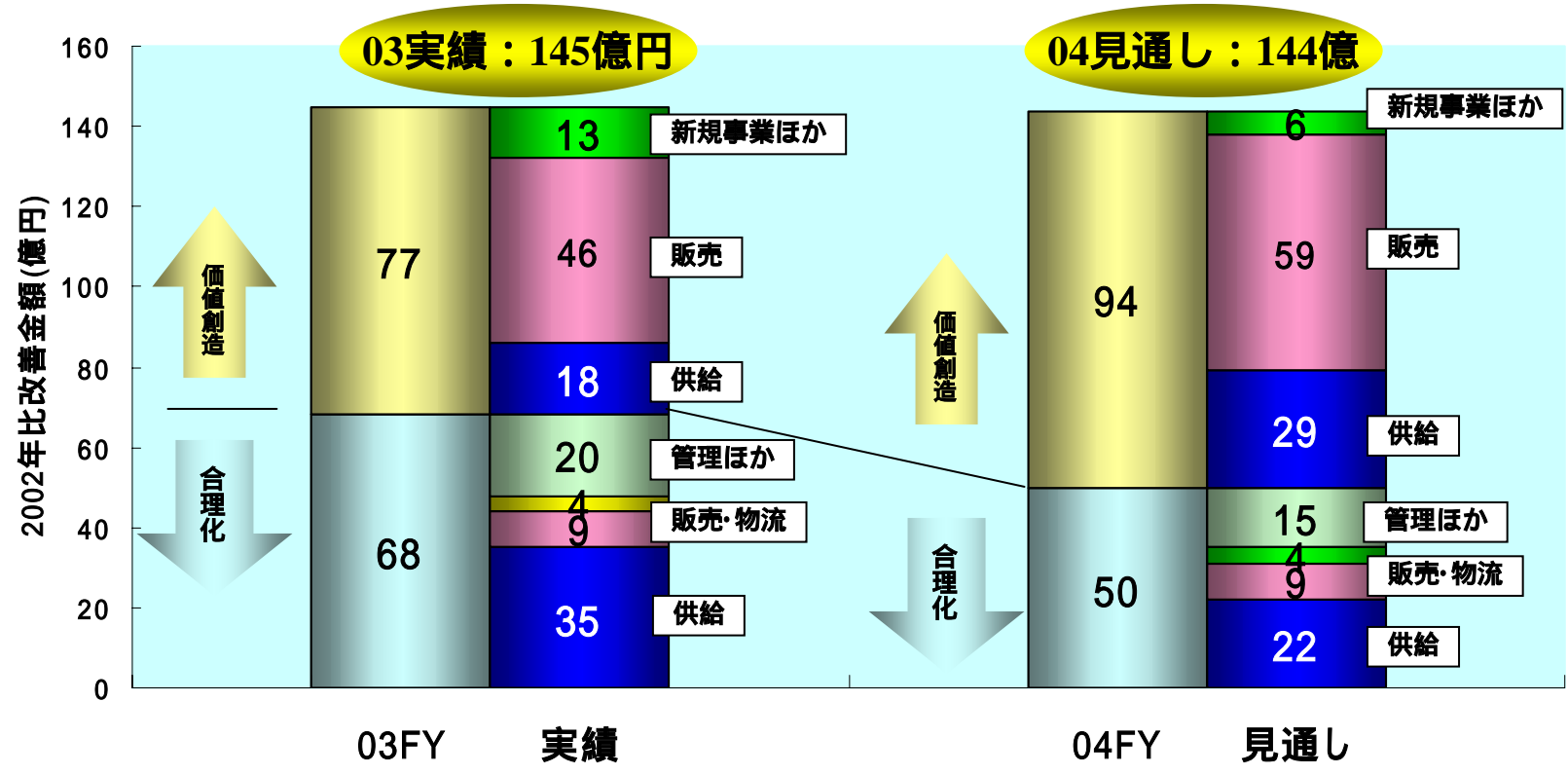
項目	03年度計画	03年度実績	
合理化・価値創造	142億円	145億円 達成率102.4%	合理化68億円 (達成率94.7%) 価値創造77億円 (達成率110.2%)
製油所 トッパー稼働率	見通し87.3%	87.8%	前年同期比 + 5.8%
連結 有利子負債額	06/3末 5,200億円	04/3末 5,593億円	前期末比 33億

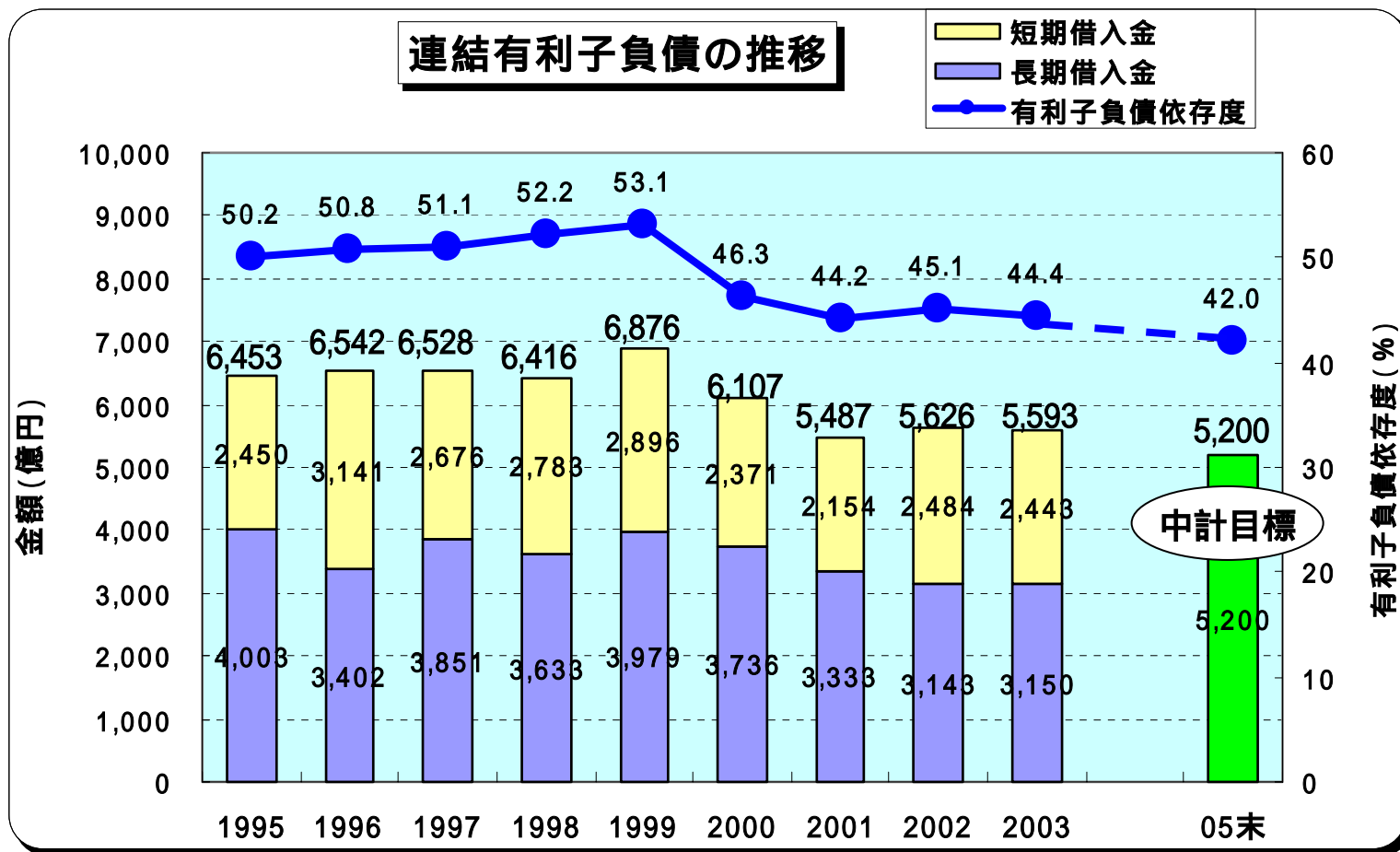
2003年度実績
 計画:142億円
 実績:145億円
 達成率:102.4%



2004年度見通し
 144億円

中期計画 合理化・価値創造の進捗と見通し



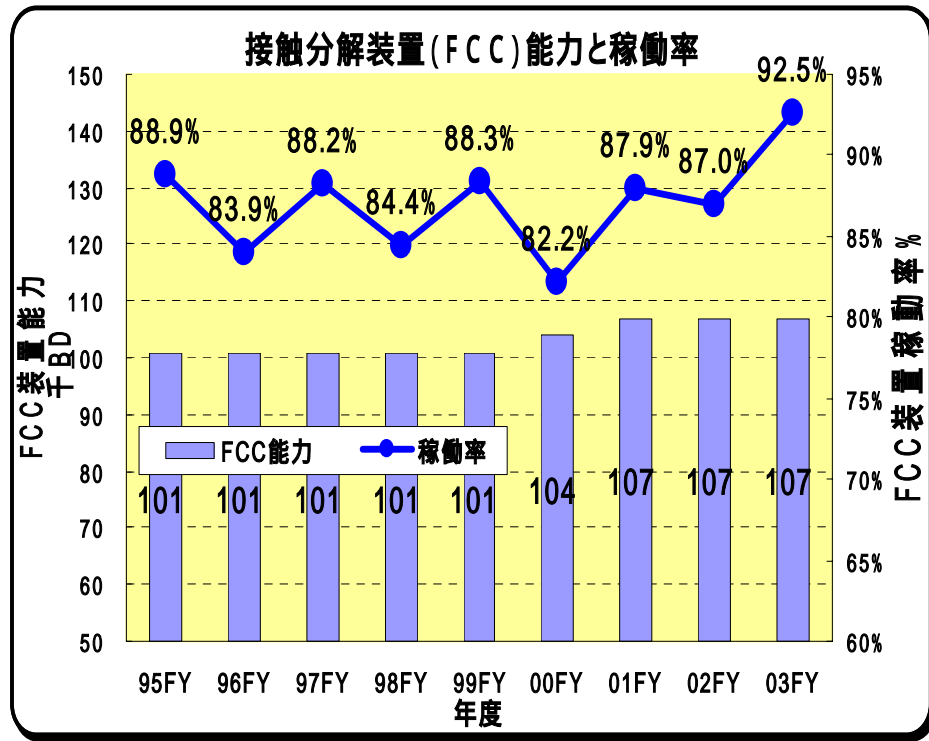
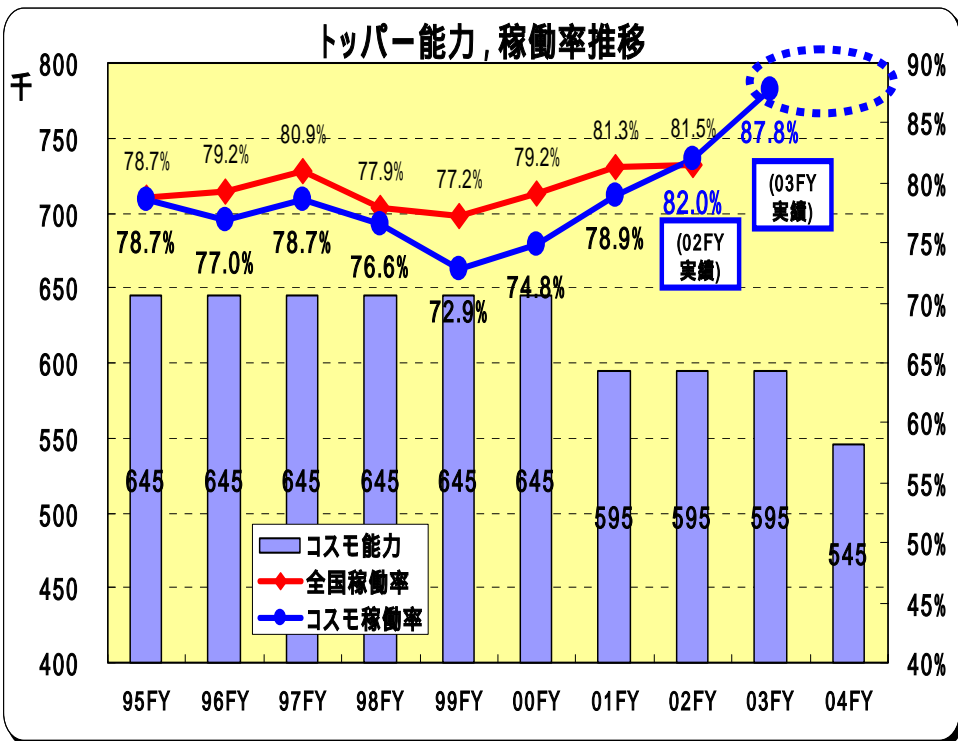


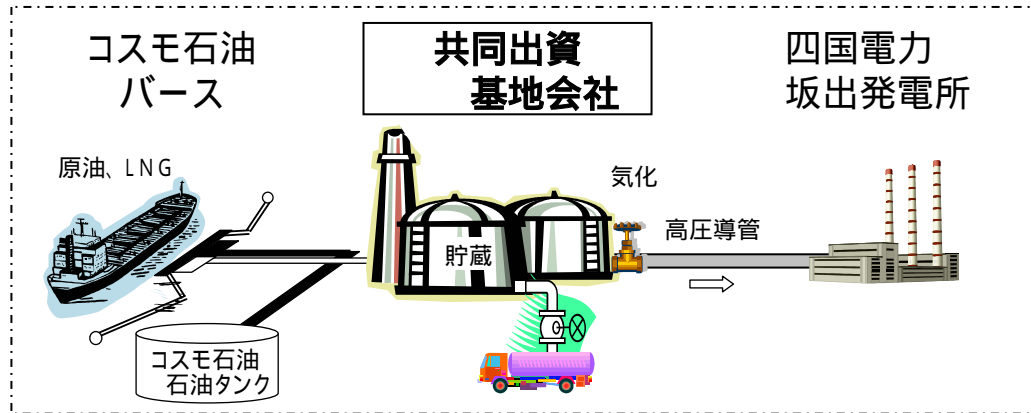
中計方針
四日市・坂出両製油所のトッパー能力を 5万BD削減

2003年度トッパー稼働率 ... 87.8%

稼働率 = CD%

稼働率 = CD%





坂出製油所を総合エネルギープラットフォームとするべく、製油所内にLNG基地を建設するとともに、当社、四国電力(株)、四国ガス(株)の3社が出資して設立する基地会社が事業運営を行います。

<基地会社の概要> 2004年6月中旬を目途に設立

基地会社名: 坂出LNG株式会社

設立時資本: 9億円(資本金4億5千万円、資本準備金4億5千万円)

出資比率 : 四国電力70%、コスモ石油20%、四国ガス10%

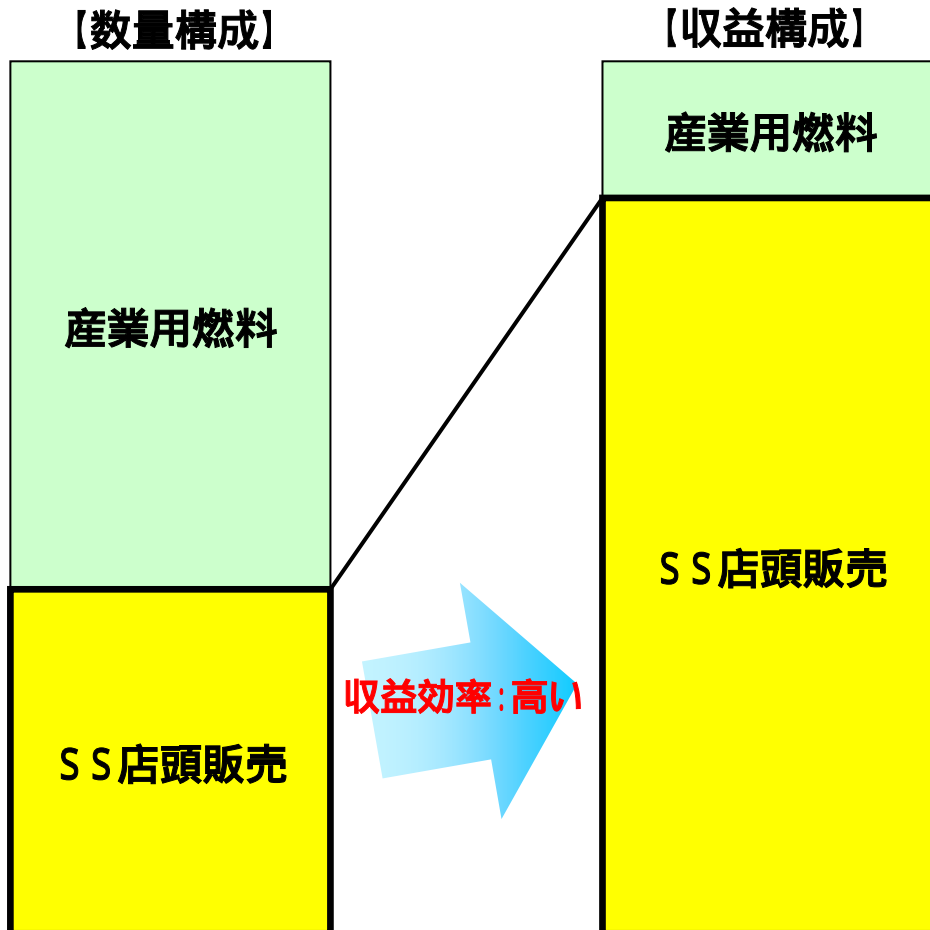
役員 : 取締役5名(四国電力3名、コスモ1名、四国ガス1名)

監査役3名以内(当面は1名)

事業内容: LNG基地建設に関する業務

LNGの受入・貯蔵・気化・気化ガス送受および出荷に関する業務

収益はSS販売によって生み出される。
収益効率の高いSS店頭販売を強化し、
確固たる収益基盤を構築する。



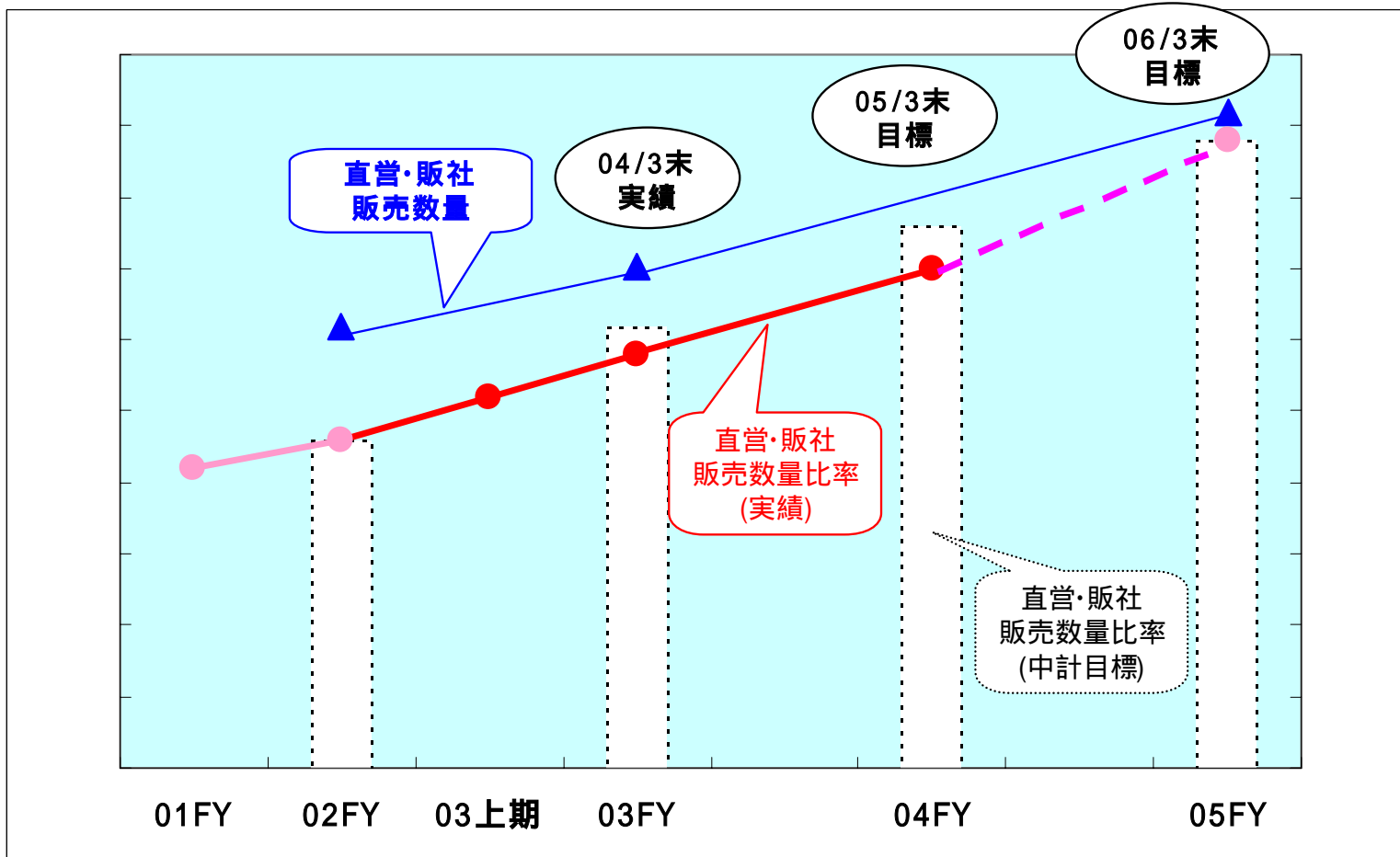
直営・販売子会社強化

直営・販売子会社SSの
ウェイトを高め、収益基盤を
強化
(SS自燃油構成比をほぼ2倍に)
・Auto B - cleネットワーク
・セルフSS
・コスモ・ザ・カード

特約店販売強化

直営・販社運営ノウハウ、
コンセプトを特約店へ展開し
グループの競争力を強化

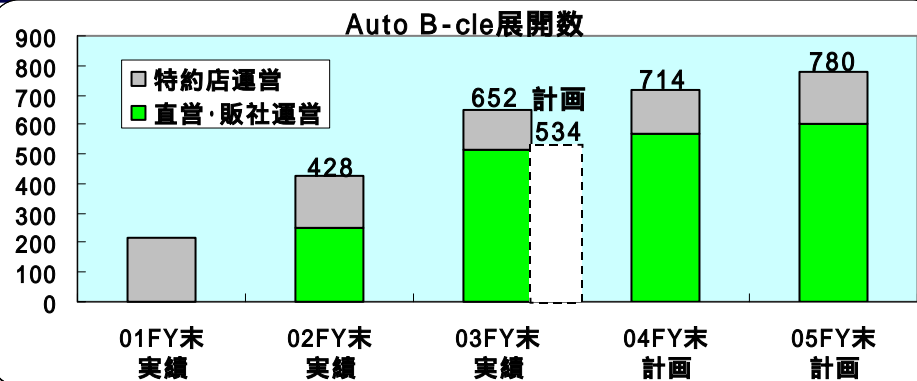
直営・販売子会社 自燃油数量構成比
(実績・見通し)



Auto B-cle展開実績

《一般SSとの比較》

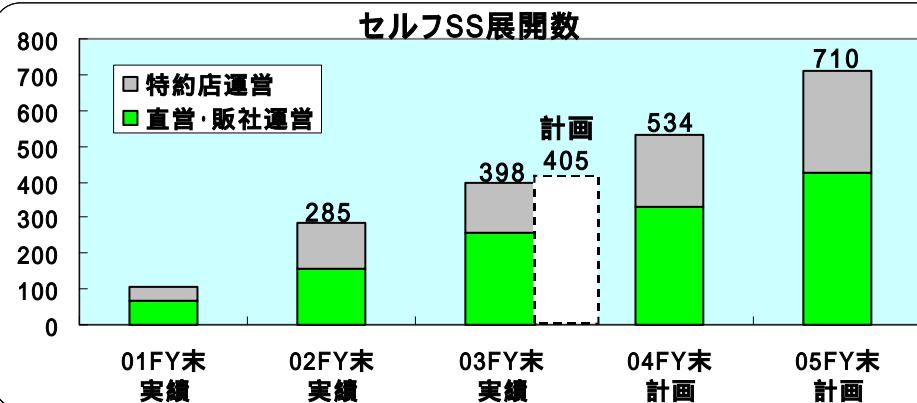
項目	単位	Auto B-cle			一般SS
		キーステーション	サテライト	合計	
自燃油数量	KL/月	465	264	279	214
カーケア粗利	千円/月	3,187	2,334	2,401	1,847
ザ・カード比率	%	55%	43%	45%	22%



セルフSS展開実績

《一般SSとの比較》

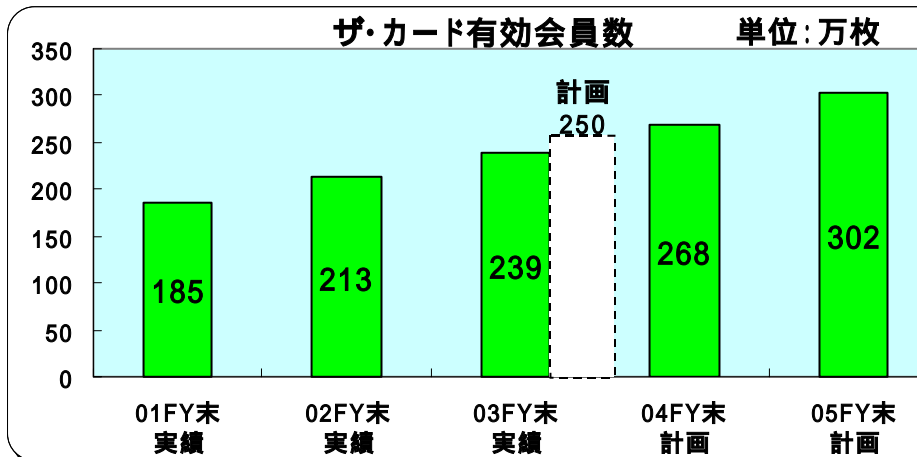
項目	単位	セルフSS	一般SS
自燃油数量	KL/月	391	106
ザ・カード比率	%	55%	19%

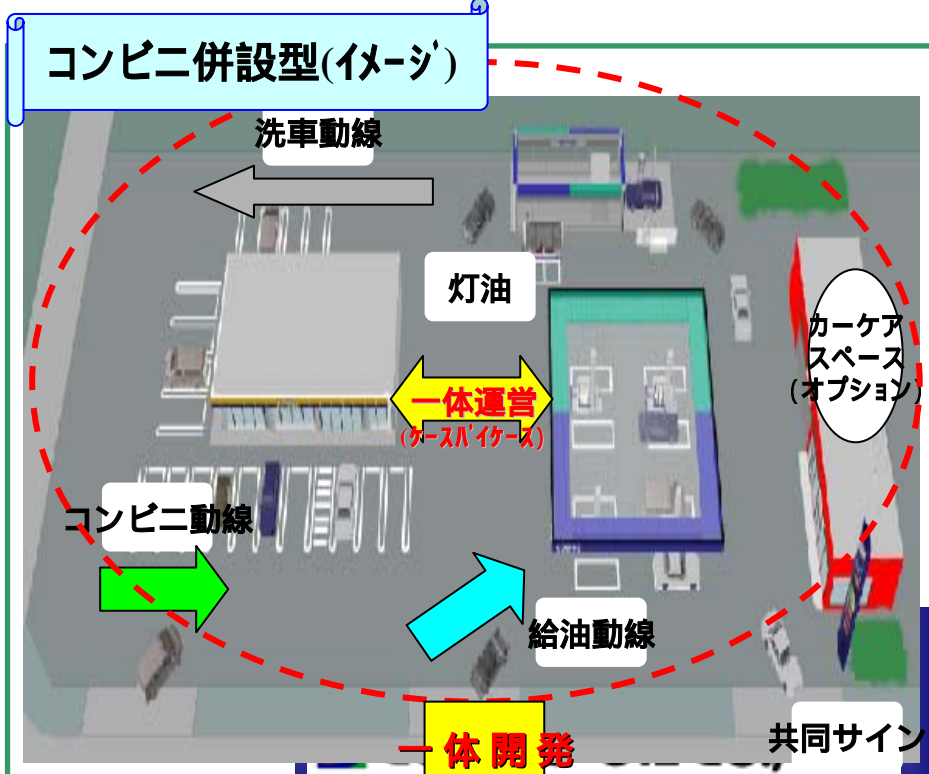
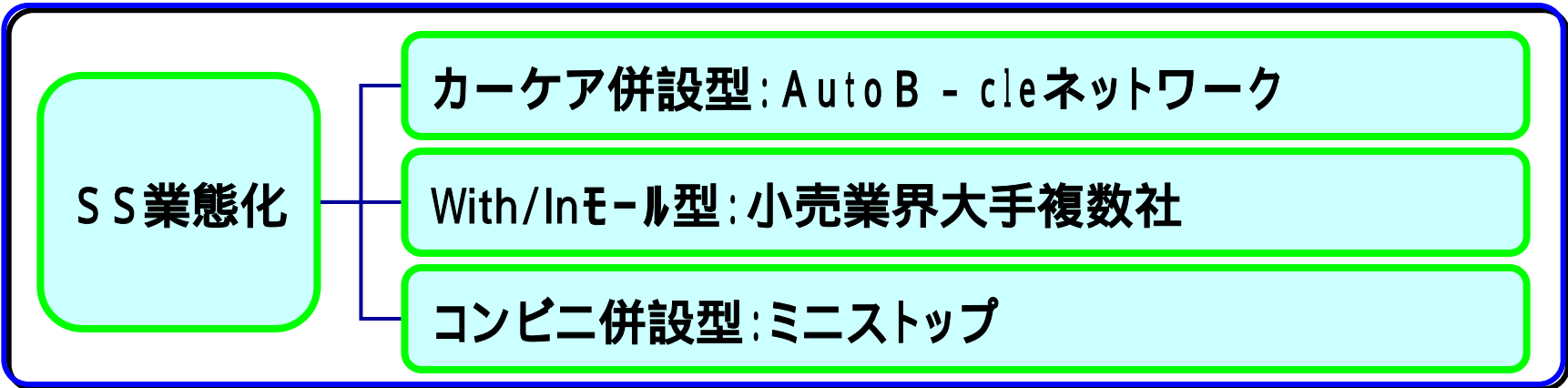


コスモ・ザ・カード発券実績

《現金会員との比較》

項目	単位	コスモ・ザ・カード		現金会員
		「コスモ」	「IC」	
自燃油数量	KL/月	102	114	55
ハイオクレシオ	%	22%	31%	17%
付加価値購入額	円/月	1,118	1,429	171





石油開発事業

アブダビ石油、合同石油開発の操業の安定化・高度化
 カタールでの商業生産移行

＜カタールプロジェクト 商業生産計画概要＞

鉦区取得：1997年
 生産期間：2005年～2015年
 生産量：初期 約 6,000BD
 最大 約10,000BD

原油性状：A P I 約40

カタール半島よりカタール産原油として出荷

カタールプロジェクト取得鉦区位置図

アラビア半島概略図



電力・新エネルギー事業

2003年7月 四日市IPP運転～中部電力向けに電力の卸供給開始。

2003年3月 JHFC横浜・大黒水素ステーション(*1)の運営を開始。

2004年3月 消費者の視点に立った、水素供給技術検討のため、日産自動車製燃料電池車「X-TRAIL FCV」を導入。
 水素充填に関する共同研究を日産自動車と開始。

ALA(*2)事業

・当社独自開発の技術/商品

...発酵法による製造技術開発。植物成長促進の特許取得

世界初のALAを含む液体肥料「ペンタキープ®V」(誠和社にて製品化に成功)

・04/4～研究開発部内にALA事業グループを新設。同事業に本格的に取り組み。
 2007年度売上(計画)20億円。

上記に加え、

・コジェネ設備を活用した熱電併給事業 ・SAP導入コンサルティング事業 等を展開

＜注釈につきましては最終ページをご参照ください。＞

【参考資料】合理化・価値創造進捗総括表

項目	部門	2003年度			2004年度				
		当初計画	実績	達成率	当初計画	実績見通し			達成率
						上期	下期	年度計	
		(億円)	(億円)	(%)	(億円)	(億円)	(億円)	(億円)	(%)
合理化	供給	36	35	97.6%	20	12	10	22	106.2%
	販売	11	9	81.8%	2	1	8	9	459.0%
	物流	4	4	90.1%	5	3	1	4	89.2%
	管理ほか	21	20	97.8%	18	9	6	15	83.2%
	小計	72	68	94.7%	45	25	25	50	110.7%
価値創造	供給	16	18	107.0%	32	13	16	29	88.8%
	販売	40	46	115.9%	55	15	44	59	108.5%
	新規事業	14	13	97.6%	11	6	0.3	6	58.6%
	小計	70	77	110.2%	98	34	60	94	96.6%
総合計		142	145	102.4%	143	59	85	144	100.4%

見通しに関する注意事項

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。

<10ページ注釈>

(*1) JHFCプロジェクト = 「水素・燃料電池実証プロジェクト」

...経産省が実施する固体高分子形燃料電池システム実証等研究補助事業に含まれる「燃料電池自動車用水素供給設備実証研究((財)エンジニアリング振興協会が実施)」と「燃料電池自動車実証研究((財)日本自動車研究所が実施)」から構成されるプロジェクト

(*2) ALA...5-アミルプリン酸。全ての生物に存在する天然アミノ酸。葉緑素/血液の形成に必要な原料。